



発行所  
天理教祝梅分教会  
千歳市祝梅 598  
☎0123-29-2055  
復刊第三十号

## 九月 月次祭神殿講話

本日は九月の月次祭にご参拝いただきありがとうございます。本日は、若人会より縦の伝道講習会として依頼を受けましたので、このお話を縦の伝道としてお話いたします。

論達第四号では、

「教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通じ、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく。一步一步の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。この道にお引き寄せ頂く道の子一同が、教祖の年祭を成人の節目として、世界たすけの歩みを一手一つに力強く推し進め、御存命でお働き下さる教祖にご安心いた

だきき、お喜び頂きたい。」と最後のページに記されています。

あらためてお話すれば、親神様は陽気ぐらしを見るのを楽しみに人間をお作りになり、身体をお貸し下さいました。その中で私達の心は自由に使わせていただいています。しかも親神様は今もお働きくださっています。私たちの親は親神様であり、人間は皆兄弟姉妹です。

おふでさきに

せんしよのいんねんよせてしうごふる  
これハまつだいしかとをさまる 一七四  
をやこでもふうのなかもきよたいも  
なめへく心にちがうで 五八  
せかいぢういちれつわみなきよたいや  
たにんとゆうわさらないぞや 一三四三  
とあります。

神様は、いんねんの者を寄せて守護して下さい。それが私達の家族や兄弟の意味ではないでしょうか。しかし、心は皆違ふ訳ですか

ら様々な価値観を受け入れることも大切ですし、許すことも大事だと思います。一人ひとり、心が違うのですから育て方や育ち方にも違いがあるのは当然のことです。

ある年の婦人会総会で、真柱様は、「自分の周りに集まってくる人は、みんな、いんねんあつて出会った人たちであります。そして、そのお互いは、それぞれの成人に必要なであると親神様が寄せ合わされた人同士であります。」とお話になりました。出会った方々のおかげで幸せだと感じ、成人させていただくと思います。これからも幸せでありたい成人させてください。と願う私達です。

教祖のひながたでは、こかんさまが、お母さん、もう、お米はありません。と、言う、と、教祖は、

「世界には、枕もとに食物を山ほど積んでも、食べるに食べられず、水も喉を越さんと言うて苦しんでいる人もある。そのことを思えば、われらは結構や、水を飲めば水の味がある。親神様が結構にお与え下されてある。」と、諭され、子達も、崩折

れ勝ちな心を振り起して、教祖に従うた。とあります。

私達は、「水を飲めば水の味がする」という言葉を事あることに使いますが、その後続く「親神様が結構にお与え下されてある。」という教えが大切だと思います。いつもいつも親神様が結構にお与え下されてあるのです。教祖は、今を喜びましょうと子供に今の喜びを教えているのです。

「たすけてやる。たすけてやるけど天理王命という神ははじめてのことなれば、誠にすることむつかしかる。」と飯降伊蔵さんが初めてお屋敷に来られ、たすけを願われた時に仰いましたよね。私たちも同じではないですか。子どもたちも同じだと思います。最初はみなはじめて聞く神様だったのです。

そうした中で親神様の教えが伝わったら「周りの人つまり横で比べず、過去の自分つまり縦で比べ成人を見つめ直すこと」が大事です。焦らずコツコツと前に進んでいきましよう。

優しい心は神の望みとお教えいただきます。優しい心でお付き合

いをしていきましょう。その中で、もし悩み事や身上事情で出会ったら  
 このたびのなやむところへつらからふ  
 あとのところのたのしみをみよ 九三六  
 というおふで書きを思い出してください。必ず大難は小難、無難にお連れ通りいただいているんだ。必ずあとにありがたさを感じるべきがくるんだと心倒さず過ごしていきましょう。

「こどものための教典教室」  
 (高野友治著) から  
**旬刻限の到来**  
**教祖をやしろとして**  
 について学ぶ

論達に「親神様は、旬刻限の到来とともに、教祖をやしろとして、表にお現れになり」と、あります。これは天理教の立教をお示

しくださっています。今回の「梅香」では天理教の立教の中でも、論達の中から「旬刻限の到来」「教祖をやしろとして」について学ばせていただきますと思います。  
 昭和五十四年に発行された「こどものための教典教室」高野友治著には、天理教教典第一章「おやさま」について次の様に記されています。

親神様は「元の神」「実の神」です。「元の神」とは、元はじまりの神様、人間創造の神様。「実の神」とは、人間を育ててくだされ、今も変わらず人間を見守り、人間の幸福を図る真実の神様。その人間の元なる神様が、教祖を神様の「おやしろ」として貰い受けになり、教祖のお口を通して人間に神様のお心のうちをお伝えくださったのです。(中略)

神様が宇宙をおつくりください、人間をはじめ生きとし生けるものをおつくりくださった。  
 具体的には、地球が出来たのが今から約四十六億年前で、生物が

現れたのがそれから十億年後、そして人間の形をして出てきたのが今から数百年前からだと言われます。  
 人間の始まりは猿に似たもので、それから進化したものだといえます。始めはまことに幼稚なものだったと思います。  
 まず何よりも先に覚えなければならぬ事は、生きるために食べることだったと思います。  
 それから道具を使ったり、火を使うことを覚えたのでしょうか。いって見れば、体こそ一人前になったとしても知恵のほうは子供のよくな人間で、他の動物たちと共に生きていたようなものだったでしょう。

その上に地上には雨も降り、風も吹き、雪も積もる。寒い日もあれば、暑い日もある。山が火を吹くこともあれば、川の水が増し、あたり一面、水が激しく流れて湖になることもある。

そんな中に生きてゆく事は並大抵のことではなかったと思います。病気で死ぬものもあり、食べ

物がなくて飢え死にする場合もあったでしょう。  
 猛獣に襲われる危険に包まれている。そんなときの人間は、とにかく生きることが最大の目標であり、努力であったと思います。そこからできるだけ苦しむことを少なくし、できるだけ楽をしようと考える。この考えが高じてくると、自分さえよければ他人はどうなっても良いと言う考えになる。

神様は楽しく喜びやって生きてくれよとの願いを込めて人間を作り、その人間の営みを陰からお助けして下されるのだと思います。  
 だから、自分だけが良ければ他人はどうなっても良いと言う考えで生きている人間の姿をご覧になっている神様は、こんな人間を作るためにここまで苦勞してきたのではないと思いませんか。(中略)



神は世界の人間全部の陽気な暮らしを望んでおいでになるのですが、人間の方では、自分の幸福、マイホームの幸せ、一族一門の繁栄、自分の国の栄えと、自分を中心にした幸福を考えます。そして、その幸福論を裏返すと、他人はどうなってもよいのであり、自らの幸福を阻むものを抹殺して、再び自分の幸福を脅かすものがないようにしようとする考えがあります。

この考えは、すべての人間の創造者である親神様の気持ちからするなら、誠に嘆かわしい考え方とみられるに違いありません。

どうして人間は人間皆兄弟として生きがいのある生き方を楽しんでくれとの願いを込めてお作り下された神、創造者の心に反して、互いに争い、互いに殺し合う人間になったのでしょうか。

私は、人間がそうあるのもやむを得ないことと思います。

人間は先に記したように、あらゆる人間の生存を邪魔するように思われる出来事の中を通過してこ

まで生き延び、ここまで繁栄してきたのです。

そのために、自分の命を守ることに全知全能を使い果たしてきました。相手の心を考え、敵の心を考え、相手をも生かし、敵をも友達にして、共に生を楽しもうなどと考えている余裕はなかったのです。

もし、そんなことを考えていたら、こちらが飢え死にしなければならなかったのです。

すべての子供が大人になるために、たどらねばならなかった一つの道中であつたと思います。

「いかん」と言う前に、「ようこそここまで生き延びてきてくださった、成人の道をたどってきてくださった」と、今の人間に至るまでの人間の歩みに、深い感謝の気持ちを表さねばならないと思います。

問題はこれからののです。

ここで本当に人間の創造者、親なる神の声を聞いて、その声に従って通ることが問題なのです。こ

のことは世界の国々の歩みも同じ事だったので。

今までは、自分の国をいかに強く、いかに幸福な国に作り上げるかのために、他国を敵としてそれをやっつけることの中に、自国の幸せを考えてきました。それも人類の歩みと同様、やむを得ない一つの道中であつたと思います。

だが、時代は変わりました。神の思惑も変わりました。

人間は皆兄弟として仲良く楽しんでくれ、今はそういう時期だとされていると思います。

天理教の立教は世界の、宇宙の考え方の転換を告げる神の声であつたと思われます。

ここまでの文章を読ませて頂くと、今は、世界中の人が助け合えば、陽気ぐらしが出来る為に必要な物が全部整つたと言うことなのです。

陽気ぐらしのために、お互いが出来る事をさせて頂きましょう。

一人一人に親神様、おやさまが大きな力で後押ししてくださいませ。

若人会からのお知らせ

## 第62回 ボーリング大会

日時：10月22日(日)  
13:00集合 13:30から開始  
場所：千歳フジボウル  
参加費：大人、小人ともに1人500円

※参加を希望されます方は10月13日(金)までに若人会役員までご連絡ください。

## 10月29日(日)は ようぼく一斉活動日です

ようぼく一斉活動日は、同じ地域に住むようぼくが集い、思召に心を揃え、互いに勇ませ合ってともに年祭活動の歩みを進める日です。ようぼくは、毎回参加しましょう。

○会場○

全支部に会場が設けられます。

※教会・支部情報ねっとで掲載しています。

○参加御供○

300円(子連れの場合、中学生以下は不要)

## 『手直し』

◎小学生のとき、書道教室に半年ほど通った。私の書いたクセ字の上に、先生が丁寧に朱筆で手直しをして呉れたことがある。

◎考えてみると地域や職場には必ず人を見る眼のある知識豊富な人がいてどんな仕事でも理屈なしに真面目に働いている人を見たら、事ある毎に気づかぬその人の貧困な能力や、感覚を親身になって手直しをして育てている。

◎人間は身勝手なもので人生を正しく歩みたいと願うやいやもすると横道にそれやすい。だから神や賢者よりそのつどそのとき手直しをして貰える善き人間でありたい。

ハイ！  
ちょっとひとこと



布教の家週報録より

八月十二日 愛知寮 高橋悟志

親神様、教祖、日々は結構にお連れ通りいただき、誠にありがとうございます。私たちが愛知寮寮生一同は、夏の暑さにも負けず、勇んで毎日にをいげに歩かせていただいております。

さて、私事ではありますが、私は八月六日に誕生日を迎え、三十歳になりました。大きな病気もけがもせずに御守護いただき、ありがたい限りであります。

三十歳となり、心機一転、より勇んで通らせていただくと思っております。おどば帰参を目標に頑張っていきたいと思っております。



あとがき

今回の高野友治先生のお話の中で、今まで人間が積んできたほりに対して

「いかんという前に、ようこそここまで生き延びてくださった。成人の道をたどってきてくださった。」と、今の人間に至るまでの人間の歩みに、深い感謝の気持ちを表さねばならないと思います。という文章がありました。

心のほこりを払おうとする時、「自分はこんな心を使ってしまった」と、自分の心を責めて苦しくなります。でも、これからは「今まで私を守ろうとしてくれたんだね。喜ばそうとしてくれたんだね。ありがとう」と感謝して、心のほこりを払わせてもらいたいな...と、思いました。

